

## LORC 2005年3月スケジュール

### 19日(土) 第3班第8回研究会

時間: 12:30 - 13:50

会場: 龍谷大学深草学舎 紫英館 2F 第5共同研究室

### 19日(土) 第3班主催 森田朗先生講演会

講演者: 森田朗(東京大学公共政策大学院長)

講演テーマ: 「公共政策大学院の課題と展望 - 東京大学の経験から」

時間: 14:00 - 16:00

会場: 龍谷大学深草学舎 紫英館 東会議室(参加者数によって変更の可能性あり)

### 25日(金) 第3班ディスカッション・テーブル「地域社会における公共的人材育成システムの構築とその社会的認証」

時間: 9:30 - 17:30

会場: 聞法会館多目的ホール(西本願寺北隣り)

テーマ: 昨年11月に開催された同名シンポジウムのフォローアップ会議です

セッション1) 市民と行政のパートナーシップの展開: NPOと自治体の人材育成

セッション2) 地域公共人材の教育と研修: 大学と地域の連携を中心にして

セッション3) 自治体の職員研修・人事評価システムの変革: 地域公共人材の視点から

### 26日(土) 第2班第9回研究会

時間: 10:00 - 13:00

会場: 龍谷大学深草学舎 紫光館 3F 研究交流室

テーマ: 1) 来年度の研究プロジェクトの構成について

2) 英国における公共政策系教育のサーベイから

## 各班活動状況

### 第1班 RA 辻本 乃理子

1月28日三重県庁講堂におきまして、東京農工大COE、龍谷大学LORC、三重県の共催シンポジウム「大学・市民・企業・行政による協働プロジェクト『暮らしに根ざした心地よいまち』」が開催されました。各地の風土に根ざした暮らしづくりの事例とそれを支える技術や制

度についての最新事例が発表され、大変多くの聴衆のもと、大盛況のうちに閉会しました。1班より白石克孝班代表と逢坂誠二ニセコ町長が講演者として参加されました。このシンポジウムの内容は、ブックレットとして出版予定です。また、これを受けて、2月12日に龍谷大学深草学舎にて共同プロジェクトメンバーによる会合が持たれ、シンポジウムの反省とまとめ、プロジェクトの理念と政策の柱につ

いて議論が交わされました。この中で、3月中旬に3者の間で協定を結ぶこととなりました。次回1班研究会開催日は未定です。

### 第2班 RA 新井 健一郎

2月20日に開催された第8回研究会では、これまでの議論を踏まえ、第2班では教育システムと職員研修を考えるワーキンググループづくり、それぞれ拠点を設けて研究を進めていくという今後の活動方針を確認した。来年度早々に情報交換会を開いて各ワーキンググループを始動させ、後半には熊本市でプログラムを試行、再来年度以降の本格的実施につなげていくこととなる。また、ワーキンググループの活動と並行して2班全体の研究会も継続して開催し、事例調査および異なる研修プログラムの共通項・相違点などについての分析を進めていく。3月26日開催される第9回研究会で、引き続きワーキンググループのメンバー構成や呼びかけ方法などについて具体的な調整を行っていく予定。

### 第3班 RA 田村 瞳

2月5日(土)に、第六回研究会が開催され、提言書の取りまとめ、ブックレット作成及び2005年度以降の第3班の研究活動について議論が行われた。提言書の取りまとめについては、従来の認証機関設立の議論を越えて、新たに地域公共人材の育成・採用・研修が統合されたシステムの創設が提案され、検討された。この議案については、次回の研究会で引き続き議論されることになった。ブックレット作成に関しては、2003年度の講演会時のローゼンブルーム先生の原稿と2004年度のプログラム招聘研

究員のワーナー先生の原稿を中心に、読者向けに認証及び認証機関についての解説を書くことが決定された。2005年度以降の第3班の研究活動については、今年で2年間の研究活動を終了するため、今後は班を越えるプロジェクトにおいて各研究員に随時協力を得る及び最終年度(5年度目)に必要があれば再召集することが決定した。そして、2月26日(土)には第七回研究会が開催され、提言書の取りまとめに関する筋書きの確認が行われた。次回の研究会は、3月19日(土)に開催予定で、引き続き提言書の取りまとめについて議論される。また、同3月19日(土)に、LORCと龍谷大学学長室の共催による東京大学公共政策大学院院長の森田朗先生の講演会が開催される。年度末には、3月25日(金)に、2004年11月24日、25日に開催したコンファレンスのフォローアップのためのディスカッション・テーブルを開催する。

### 第4班 RA 金 湛

1月27日に第4班の第6回研究会が龍谷大学深草キャンパスで開催された。第4班に所属される龍谷大学の先生方が研究会に参加され、今年度の予算執行状況、来年度およびその後の活動の方向性、今年度の活動の総括の3つの議題について話し合った。また、4班の役割は、アジア3カ国・アフリカ3カ国を対象として、地方分権化・地方制度改革の中での人材育成のあり方について比較研究し、日本の国内を対象とする1班から3班とその内容を結びつけながら研究を行っていくことであると位置づけられた。また、LORC全体及び第4班のこれまでの研究活動の反省点として、共通の研究テーマが明白になっていないことが多くの研究員から指摘された。

## 掲示板

### 第2班研究員の木佐茂男先生の論文が「地域政策」新年号に掲載されています

先生の論文、『「小さな自治体」の可能性：いくつかの国の現実から』が「地域政策」(2005, No.14, pp.35-41)に掲載されています。皆様是非ご覧下さい。

### 新聞・雑誌などの記事について

新聞、雑誌などにご自分の記事が掲載された時は、ぜひLORC支援室の場 ([matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp)) までお知らせ下さい。こちらでも出来るだけピックアップするようにしていますが、すべてをカバーするのは困難ですので、宜しくお願い致します。

## LORC information

### 2004年度LORC研究員合同研究会が開催されました。

去る2月4日(金)にLORC研究員全体会が開催されました。年度末で皆様ご多忙の中、30名近い参加を頂きました。当日は、皆様から多数のご意見を頂き充実した議論が展開されました。その中で共通の認識として確認されたのが、今後のプロジェクトにおける、LORC共通の理念的フレームワークとそれを土台にした戦略的活動方針の必要性でありました。これを踏まえて14日(月)に行われた研究連絡会議で、このフレームワークについて議論する班横断的なプロジェクト・チームを立ち上げることが決定しました(これにつきましては、後日詳しくお伝え致します)。

研究会の報告書をLORCウェブサイト(<http://lorc.ryukoku.ac.jp/>)にてご覧になれます(直接飛びたい方は、[http://lorc.ryukoku.ac.jp/docs/2004\\_0204\\_general\\_meeting\\_report.doc](http://lorc.ryukoku.ac.jp/docs/2004_0204_general_meeting_report.doc))。なお、研究会に関するご質問等は、PD的場([matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp))までご連絡下さい。



## LORC 資料室内文献紹介

このパートでもたびたびお知らせしておりましたが、LORCでは資料室の文献充実にこの1年間努めてきました。先日の合同研究会において、「公共哲学」の議論が出たのをうけ、これに関する文献をいくつか購入しました。ということで、今日は「公共哲学」に関する本のご紹介です。なお、引き続き皆様からの有益な文献・映像資料などの情報をお待ちしております。皆様ご協力宜しくお願い致します。

西尾勝, 小林正弥, 金泰昌(編)『自治から考える公共性』(東京大学出版会、2004)

佐々木毅, 金泰昌(編)『日本における公と私: 公共哲学3』(東京大学出版会、2002)

ユルゲン・ハーバーマス(著) 細谷貞雄, 山田正行(訳)『公共性の構造転換: 市民社会の一カテゴリーについての探究(第2版)』(未来社、1994)

松野弘『地域社会形成の思想と論理 - 参加・協働・自治』(ミネルヴァ書房、2004)

雑誌の情報は以下のサイトへ!

ガバナンス

[http://www.gyosei.co.jp/book/g\\_zassi/gover/index\\_gover.html](http://www.gyosei.co.jp/book/g_zassi/gover/index_gover.html)

日経グローバル

<http://www.nikkei.co.jp/rim/>

## LORC 研究員のひとこと（紹介）

今月の研究員紹介は第2班研究員の西田俊之氏です。

**西田俊之 氏**  
**熊本市経済振興局 局次長**

日々の業務の中で職員に「手段の目的化」に陥らないようにと指導しつつ、その自分を振り返ると LORC 第2班の研究テーマ「地方公務員と NPO 職員養成のためのシステム構築」において、自分も同じことをしているのではないかという気がしてならない。養成システムの構築は手段であり、これをツールとして協働化社会を築くことが最終目的であるが、現実には協働化社会のあるべき姿を描き切れないうえに手段の一つであるシステム構築にウエイトをかけざるを得ないことに自戒の念を拭い去れないでいる。

## 編集後記

今月の華道のお稽古で、桃が花材に。春がそこまで来ているのを感じました。しかし、私の姿は、真冬そのもの。今年の春こそ明るい色の服を着ようと思っています（ほんまかいな）（N）

年度末のお忙しい時期かと思えます。まだまだ寒い日が続きますが風邪などひかぬようご自愛ください。（K）

最近、運動不足解消のために自転車で出勤しています。周りからは無謀と言われましたが、今のところ3日坊主にはなっていません。頑張っけて続けたいと思います。（H）

春休みは半分過ぎようとしている。休み前に読もうと計画していた本はまだ机に置いたまま。毎年の休みはこうやって終わってしまうよねと友達に同じ意見を求めている自分が情けなくなってきた。今年こそ...でも本当に読めるかなあって不安がいっぱいです。（Z）  
・・・年度末ですね。忙しいですね。研究員の皆様もご多忙の日々をお過ごしのことと思います。季節の変わり目に入ってまいりますので、皆様お体ご自愛ください。（T）

LORC Newsletter Vol9, 28 February 2005

編集・発行：龍谷大学地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター（LORC）支援室

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

TEL: 075-645-2312 FAX: 075-645-2240

E-mail: [matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp](mailto:matoba@rnoc.fks.ryukoku.ac.jp) (PD 的場) WEB: <http://lorc.ryukoku.ac.jp/index-jp.html>